

2024年度 第1回理事会 議事録

開催日時：2024年3月5日（火） 13:00～14:30

開催場所：新宿区西新宿住友不動産新宿グランドタワー 5F 会議室（ルームK）
（オンライン出席を併用）

出席：センター長・浦川伸一、副センター長会計担当理事・木村英紀、総務担当理事・松本隆明、理事・遠藤薫、人見光夫、青山和浩（オンライン）、齊藤裕（オンライン）、船生幸宏（オンライン）、古田英範（オンライン）、（理事9名）
監事・船橋誠壽
事務局・出口光一郎、久保忠伴
オブザーバ・牧野泰丈、岡田俊輔（オンライン）、苗崎浩秀（オンライン）、小野慶子（オンライン）

欠席：理事・岡本浩、久間和生、島田太郎、服部正太、水落隆司（理事5名）

配布資料：2024年度第1回理事会議案書（議事次第）

1. 開会

- ・理事9名の出席（理事総数14名、欠席5名）にて、定款の定めるところによる理事会成立を確認し、浦川センター長を議長として議事が進行された。

なお、本会議は、インターネット会議システムを併用して開催され、出席者の音声/画像が即時に他の出席者に伝わり、出席者が一堂に会するのと同様に適時的確な意見表明が互いにできる状態となっていることを確認した。

2. 議事

- ・議事に先立ち、午前に開催された2023年度SIC定時社員総会にて新しく理事に選任された遠藤薫氏より新任の挨拶があった。

議題1 「2024年度SIC 役員の構成についての報告」の件（報告事項）

- ・浦川センター長より、理事会議案書の「システムイノベーションセンター 2024年度役員（理事、監事）名簿」に記載の理事、監事に、本年度、お勤めいただくことが報告された。
- ・また、上記の名簿に記載のように、業務執行理事として、浦川理事のセンター長・代表理事、木村理事の副センター長・業務執行理事（会計担当）、松本理事の業務執行理事（総務担当）の担当が、異議なく確認された。

議題2 「2023年度の会計（決算）の報告」の件

- ・浦川センター長より、2023年度の決算については、昨年12月開催の理事会におい

て既に承認を頂いており、その後、年度末にかけての修正を行い、確定をしたものが本日の総会にて承認されることが報告された。

- ・それに加え、議案書に記載の2023年度の会計諸表について、木村担当理事より前回理事会での報告に付け加える若干の説明があった。
- ・また、船橋監事より理事会宛での「2023年度（令和5年度）監査に係わる報告」について、会計の監査完了を含む説明があった。

議題3 2024年度活動についての特記事項としての「SIC戦略提言発出活動の件」

- ・2023年度のSICの主要な活動である「SICシステム化戦略提言」の発出について、戦略委員長の木村副センター長より、現在の進捗状況、成果等が議案書に記載の説明に沿って報告された。

議題4 「2024年度の事業計画・予算方針について」の承認

- ・浦川センター長より、2024年度の事業計画の大枠は、午前の総会にて了承を頂いていることが報告され、本理事会では、本年度のみでなくもう少し長く見ての中期計画という中での事業計画について、理事の方々からのご意見を頂きたいとの要請があった。
- ・加えて、別途、議題にしているが、SICでは3年ごとに中期計画を立てており、第2期中期計画が本年を以て終了し、本年度中に来年度よりの第3期中期計画を策定したい。その意味で、本年度は第3期に向けての事業、活動を展開していければと考えているとの説明があった。
- ・続いて、木村副センター長より議案書に記載の2024年度の事業計画である、
 - ・戦略提言の発信
 - ・経営者研修会の開催
 - ・現代システム科学講習会（第2期、全6回）の開催
 - ・行政、金融システム、インフラ・ロジスティックス、防災システム、エネルギー燃料関連のシステム等の総合調査の実施
 - ・上記調査に基づくシンポジウムの開催
 - ・ウラノス・エコシステム構築の推進支援
 - ・インキュベーション会員による新たな分科会の立ち上げ、等と、予算方針について説明があった。
- ・以上の説明に対して特に異議はなく、2024年度の事業計画・予算方針は承認された。

議題5 「実行委員の選任」の件

- ・浦川センター長より、実行委員会は、SICの活動の根幹としてのステアリングを担ってもらっており、引き続き、SICの活動にとって要となる役割を期待している。
- ・今年度の実行委員には、すでに2回の実行委員会を開催して諸活動に参画して頂い

ている。

- ・定款では、実行委員は理事会により選任されることになっているので、今回、2024年度の実行委員の選任を承認頂きたいとの説明があった。
- ・実行委員長を勤めている松本理事より、議案書に記載の今年度の実行委員の候補と、今年度の実行委員会の進め方についてコメントがあり、特に、昨年新設された準会員から2名を実行委員に加えたいとの説明があった。
- ・以上の説明に対して異議は無く、2024年度実行委員の選任が承認された。

議題6「ウラノス・エコシステムの推進の件」

- ・浦川センター長より、まず、SICにおいて「ウラノス・エコシステム」の推進を支援していく基本的な方針は、前回の理事会にて承認を頂き、また、本日のSIC総会にでも会員へ報告、説明をさせてもらっているとの説明があった。
- ・さらに、本理事会では、本年度のみでなく、もう少し長く見ての中期計画という中での「ウラノス・エコシステムの推進」について、理事の皆様から意見をいただき、計画推進の審議とさせていただきたいとの表明があった。
- ・続いて、議案書に記載の資料をもとに、「ウラノス・エコシステムの推進」についての説明があった。
- ・これに対して、出席理事より、以下の質問、意見が出され、それぞれへの浦川センター長からの説明（下記では、「←」で示す）があった。
 - ―新設を計画している「ウラノス・エコシステム推進センター」（以下、推進センター）とSICとの関係をもう少し説明してほしい。
 - ←推進センターは、様々な企業に対して政府と連携しながら企業間取引に特化したデータ連携を推進していくため、いろいろな形でのハブ機能を担うことを想定している。SICはもっと幅の広い社会システム全般を担っており、それぞれの対象領域が異なると考えている。
 - ―同様の質問にはなるが、その両者の役割分担と連携の「建付け」をもう少し説明してほしい。
 - ←推進センターの運営についてはこれから考えていくという状況であるが、ウラノス・エコシステムに関してはステークホルダーが大変多く、経済団体、業界団体、IPAやデジタル庁などの政府系機関という形での参画もあるで、情報連携、情宣活動が大きな仕事になる。参加団体がどのようなユースケースを想定しているかを共有し整合性をとることをIPAなどと共に担っていくことが求められることになる。これに対して、テーマごとの課題や議論をSICの分科会や委員会に持ち込むという形になろうかと考えている。このための推進センターとSICの間での連携方法については、しっかりと話し合いをしていきたい。

- ーウラノス・エコシステムは、民間主体でいろんな事業体が連携するようなデータスペースをどう作るかの話だ。とすると、SICとの切り分けではそのイニシアティブの中でどういうファンクションも持つかをまず決めなくてはならない。その中で、SICがやっていること、やろうとしていることをどのような形で嵌め込むかという話になると思う。
- ーウラノス・エコシステムには、コミュニティコンソーシアム自体を既に持っている団体も参画してくるであろうから、事務局機能については十分に練っておく必要がある。
- ーIPAの中にあるDADCが担っているのはインフラのアーキテクチャーで、これこれを協調領域にしましょうとか、これからの社会にはこんなものがあつたら良いというものを設計していて、それをSICで進めている。その意味で、どんなふうなアーキテクチャー組織構造、すなわち組織のミッションをどうするかを、一回、IPA、推進センター、SICで議論した方が良いと感じる。
- ー2024年度のSICの活動計画の中で、このウラノス・エコシステム推進の話はどう位置付けるのかも併せて整理をしておくべきであろう。
 - ←推進センターとSICの事務局は一体運営をするということではなく、ただし、密に連携すべく、別途具体的な事務局間の運営方法を決めた上で連携を進めていけば良いと思っている。

議題7「第3期SIC中期計画についての意見聴取」

- ・浦川センター長より、SICでは3年ごとに中期計画を立てており、第2期中期計画が本年を以て終了し、本年度中に来年度よりの第3期中期計画を策定する。第3期中期計画としてのSICの将来計画、発展戦略などについて、理事の方々から意見を頂きたいとの説明があり、下記の意見交換を行った。
- ーこれまでのSICの中期計画で標榜していた「システム化を推進する」ということよりも、「良いシステムを作る、良いシステムにしなければいけない、現状のたくさんあるシステムを統合しさらに改善する」というように、方向性をシフトした方が良いのではないか。
- ーでは、良いシステムとは何なのかということについての議論がほとんどまだなされてない。あるセクターで良いシステムであっても、他のセクターでは全くそのやり方ではうまくいかないとか、活動しているセクター分野によっても良いシステムは違うのではないか。良いシステムを作るのは非常に難しいし、どんどんどんどん難しくなっている。そこで、このような方向性を次に志向したいと思っている。
- ー具体的なシステムの課題も掲げていくべきではないかと思う。SICはこの課題を特に重く見ているということ標榜し、「SICと言えば・・・」と思われられる

ようにしたい。

- ー例えば、ロジスティクスにおける「モーダルシフト」などは、体系的な重要な具体的課題と思われる。
- ーモーダルシフトについては、今のエネルギーの問題、いわゆる脱炭素を想定した時に、どういう形態が本来日本社会の構造としてあるはずだという前提に立つと、運輸には鉄道もあるかなという話が出てくるけれど、社会的な変革としての必要性の話をする、ビジネスとの距離感がありすぎて、なかなか現実的にならない。
- ー30年先に今のままのEVの推進が資源も足りない中でできるのかとか、個別の自動運転の車を走らせるだけで人手不足は解消されるのかとかを検証して、大きなグローバル課題に対して日本としてはこういうふうに社会課題の解決を目指すべきではないかという建付けを考えなければいけないと思う。
- ーエネルギーの問題も同じで、例えば脱炭素の過程として今の化石燃料は不使用にできるという構想は多分アカデミアの世界ではイメージできるはず。それを適用した場合に十分それがペイするという発想で、社会を説得できるようであれば、そういう検討していく意味はある。
- ーモーダルシフトの今の課題は企業レベルなのだけれど、国交省も推進プロジェクトとして補助金をかなり大量に出しており、そういう意味では少しずつ今進んでいる。将来は新幹線でも荷物を運ぶようにしたいということで、実際にも今はもう新幹線で荷物送っているようだ。今のところビジネスに結びつくのは生産点と消費点が離れているような一つの大企業に限定されてる面があるが、航路や鉄道と道路と結びつけるとビジネスとして成り立つような部門が多くあるのではないかと思う。サプライチェーンとしてはトラック輸送ばかりが議論されているのが疑問だ。その視野を広げてシステムを考えていく必要がある。
- ー本来どうあるべきかを議論して、飛行機と鉄道と車と船とみんな合わせた全体的話から持っていけないといけない。省庁縦割りの中をブレイクスルーしなければいけない。
- ー中国のサイチョウという物流会社の調査をロジスティクスの分科会でやったが、ここは非常に大きな物流会社だけど、実際にはいわゆるサードパーティーロジスティクスといわれる会社で運輸手段は何にもってない。要するに計画だけだけれど、陸海空を全部まとめたすさまじいネットワークを駆使してる会社だ。日本はその辺でも遅れてるという気がしている。
- ーサービスからスタートして、そういう絵を描くと良いと思う。サービスの立場からの人たちを入れて、これからどうするという相談をする。日本の問題は、すでに事業をやっている人たちがいて既にあるインフラを活用しようとする。その人たちとの兼ね合いをどうするかが必ず起こる。
- ーデータ連携の構想でも、データ活用ができると言っても、各事業者はそれだけでは

ビジネスが良くなるわけでもないのだったら、あまり協力できないと言って終わってしまっている。もうすこし大きな話をしないと説得できない。

- ー今の話に関連して、ウラノス・エコシステム関連でいろんな事業会社の方々の話を聞いていると、やはりニーズは多様だ。例えば、運輸系は今 2024 年のドライバー不足問題でテクノロジーを介してできるだけ最適配置みたいなことをやりたがっていて、運行管理のデータ連携基盤を作って運営を始めている協議会があったりする。
- ーこういったものがすでに複数出ている中で、既に存在する似て非なるデータ連携基盤をどうやって繋ぐのだろうというのが運輸系の課題であったりしている。一方、各自動車メーカーはバッテリーのトレーサビリティを 1 から作ってるので、ヨーロッパと対抗してやっていこうと、ある程度一枚岩になれている。ただ、業界によっては非常に似て非なるアーキテクチャーが既に複数存在していて、それを日本経済オールでどうやって連携していくのか。ある一つの統一的なアーキテクチャーに全部寄せるというのは非常に遠回りだし、賛同しかねる企業団体も多い。こういったところを個別課題としてアーキテクチャーの統合パターンみたいなものが SIC の中でも少し議論できると面白いなと思っている。
- ーそういったアーキテクチャー課題の投げかけを、例えばウラノス・エコシステムから SIC に持ち上げて、戦略委員会とか各分科会の中で揉んでもらうのも良いのではと考えている。
- ・浦川センター長より、以上の議論をもとに、第 3 期中期計画をどのような形で策定していくかについて、引き続き議論を重ねていく提案があり、この議題を終了した。

3. 閉会

議長より、議論に参加していただいた理事諸氏への謝意が述べられ、以上を以って、2024 年度第 1 回の SIC 理事会が終了となった。

(以上)

以上の書面を議事録とするため、定款第 3 2 条に基づき、議事録署名人である正・副センター長および監事の 3 名が次に記名押印する。

議長 代表理事・センター長 浦川 伸 一

議事録署名人 理事・副センター長 木村 英 紀

議事録署名人 監事 船橋 誠 壽

